宮城県高等学校野球連盟

第103回全国高等学校野球選手権宮城大会

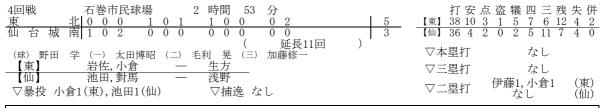
4回戦 石巻市民球場 仙 台 商 業 0 0 2 0	2 時間 36 分1 0 0 0 0	3	打安点【商】2882	盗 犠 四 三 死 1 3 5 7 7	美失併 710
仙 台 育 英 0 0 0 0	0 0 0 2 0		【育】 36 9 1	3 0 5 2 1	2 1 1
(球) 佐藤拓哉 (一) 菅原 久	((二) 水戸恭平 (三) 細川和行)	▽本塁打	なし	
(商) 宮澤,齋 (西藤 古殿	<u> </u>		▽三塁打	なし	
【育】 伊藤, 吉野 ▽暴投 齋1(商), 吉野1(育)	— ハ野,木村,ハ原 ▽捕逸 なし		▽二塁打	なし なし	(商) (音)

【評】

仙台育英は主戦の伊藤,仙台商業は左腕の宮澤が先発。仙台商業は、3回に安打と四球を絡めて1 死満塁を作り、4番の宮澤が押し出し四球を選んで1点先制すると、続く吉田の犠飛で2点目を追加した。5回表に3点目を追加すると、その裏の守りからは主戦の齋に継投した。

対する仙台育英は、5回途中から登板した吉野が力強い投球で流れを生み、8回には連打や四球を絡めた一死満塁の好機に、内野ゴロと失策の間に2点を返した。

1点を争う好試合の最後は、気迫で上回る仙台商業が押し切り、8強に進出した。

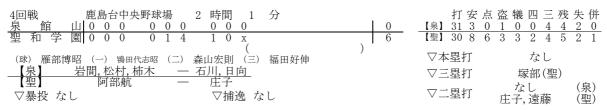


【評】

仙台城南と東北の試合は、仙台城南の先発池田と東北の2番手小倉の息詰まる投手戦の末、延長11回、5対3で東北高校が激闘を制した。

1回裏、仙台城南4番池田のセンター前タイムリーヒットで先制。さらに仙台城南は3回裏、 犠打エラーや4番池田のタイムリーヒットで2点を追加した。序盤は仙台城南のペースで試合が 進行したが、東北は4回裏、先発岩佐から小倉に継投すると、素晴らしい投球で流れを変えた。 追いかける東北は、4回裏、4番伊藤の二塁打をきっかけに1点を返し、6回表、7回表にそれ だれたずのないして同点とした。

追いかける東北は、4回表4番伊藤の二塁打をきっかけに1点を返し、6回表、7回表にそれぞれ1点ずつを返して同点とした。しかし、仙台城南先発の池田は再三のピンチにも巧みな牽制でランナーをアウトにするなど、粘り強く投げた。



【評】

両チーム先発投手が4回まで安打を許さない抜群の立ち上がりを見せた。5回裏聖和学園は、 敵失に乗じ、遠藤の中犠飛で先制した。6回裏には庄子の2塁打など4本の長短打を集め、試合 を決定づけた。

泉館山は、先発岩間が丁寧にコースを突く粘り強い投球を見せたが、終盤に聖和学園の打線が 上回った。



【評】

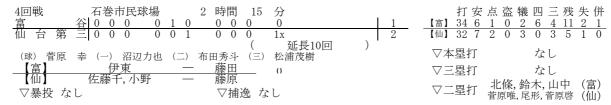
古川学園は1回裏四球に2安打を重ね、ゲームを逆転した。3回裏には、重盗で追加点をあ

げ、先発後藤が利府打線を7安打1失点に抑え完投勝利をあげた。

利府は、先発メンバーに1年生が3人並び4安打をあげるも、チャンスに1本出なく、1点し

か上げることができず、敗退した。

宮城県高等学校野球連盟



【評】

富谷、仙台三ともに安定した投手力と堅守も併せ持つ、カラーの似た両校の戦いは、息詰まる投手戦となった。

富谷伊東、仙台三佐藤千の両先発は4回まで3塁ベースを踏ませず、一歩も引かない展開となった。試合が動いたのは5回で富谷はランナーへのけん制が悪送球となり3塁へ進むと、2番櫻田のスクイズで先制した。

一方仙台三は6回先頭の菅原が2塁打で出塁すると、尾形の適時打で追いついたが、続くチャンスは、後続が抑え込まれた。7回から仙台三は小野二継投し、終盤は両投手が踏ん張り、延長となった。



[評]

第5シードの東北学院が、終始有利な展開で熱戦を制した。

2回裏の東北学院の攻撃、1満塁から1番大洞の適時打、2番今野の押し出し四球の後、3番及川の走者一掃の三塁打で一挙5点。4回裏にも無死満塁から、犠飛と失策絡みで3点を追加。 救援した主戦伊藤が仙台東打線を抑え込み、優位に試合を進めた。

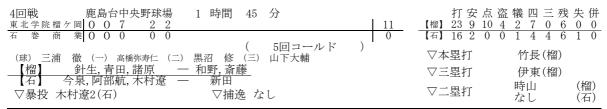
仙台東は、東北学院を上回る9安打を放ったが、好機をものにすることが出来ず3点を取るのが精一杯だった。また、四球と失策が失点に絡んだのが悔やまれる。



【評】

仙台西が、選抜出場校柴田に対し、粘り強く守り、粘り強く攻めて勝ちをもぎ取ったゲーム。 柴田は1回裏、1番、我妻、四球。盗塁の後、2番、横山の内野ゴロの間、一死三塁とし、3番、 舟山の左翼犠飛により、無安打で労せずして先取点をあげた。

仙台西は、5回表、5番、黒川が単打で出塁、6番、安川が犠打で送った後、7番、山木のショート正面のゴロがエラーとなる間に同点。8番、長谷部が犠打で、2死2塁とし、9番、田中の適時打で、勝ち越した。ゲーム後半、両軍の投手が要所を締めた結果、両軍とも得点することはできなかった。全体的に、仙台西の継投、2番手、主戦・黒川の落ち着いた投球、又、右翼手、田中の好守備が光った。仙台西は第84回大会優勝以来、19年ぶりとなるベスト8入りを果たした。



【評】

部員12人で2014年以来のベスト16進出となった石巻商業の先発は今泉。変則的な投球フォームから、走者は出すものの1・2回を無失点で切り抜ける。3回2アウトまで抑えるものの突如制球を乱し、3四死球と長短打で失点する。その後、マウンドをエース阿部航に譲ったものの、守備の乱れもあり、この回7失点する。

攻める榴ケ岡は4回に2点を追加し、さらに5回には4番竹長の大会15号ツーランホームランで試合を決めた。榴ケ岡は針生、青田、諸原の継投で石巻商業の攻撃を散発2安打で完封し、ベスト8進出を決めた。